

令和3年3月改定

1 基本的な考え方

いじめは、関わった全ての子ども的人格を傷付け、最悪の場合には命に関わる事態にまで発展する可能性のある、重大な人権侵害です。以下に掲げるのが基本方針になります。

基本方針

- (1) いじめは命に関わる問題であり、最優先課題として取り組む。
- (2) いじめは組織的に対応する。
- (3) 発生したいじめを根絶し、いじめの連鎖を断ち切る。
- (4) 「いじめは絶対に許されない行為」という生徒・保護者の意識向上を図り、未然防止に取り組む。

<いじめの定義>

当該生徒に対して、一定の人間関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該生徒が心身の苦痛を感じているもの。

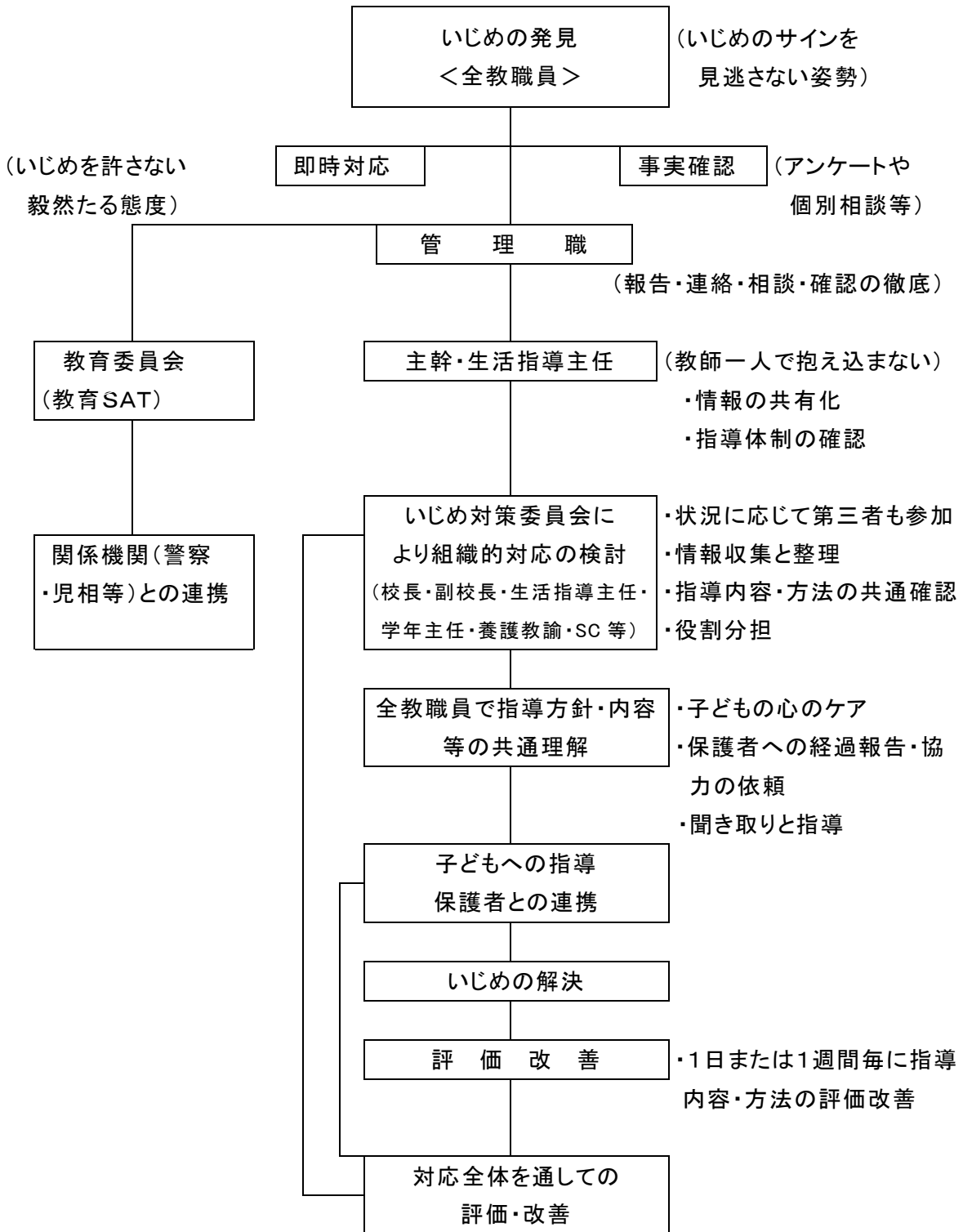
<いじめの捉え方>

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的、形式的に行うことなく、いじめられた生徒の立場で行うものとする。（「いじめられた生徒の立場で行う」とは、いじめられたとする生徒の気持ちを重視することである。）

生徒から「いじめられている」、または保護者から「子どもがいじめを受けている」との訴えがあったら、それがいじめかどうかの判断にこだわることよりも、いじめが存在すると認識し、子どもや保護者の気持ちを受け止めるようにする。

いじめは、いつでも、どこでも起こり得るという考えに立ち、「いじめであるかもしれない」「いじめに発展するかもしれない」といった危機意識を常にもち、すぐに対応する。

いじめ解決までの
対応の在り方



・いじめ発見から組織的対応解決までのプロセスを評価・改善し、次の対応へ生かす。

初期対応は迅速そして適切に

○ いじめの発見の場面ごとの対応

1 目の前でいじめを発見した場合

「いじめは絶対に許さない」と毅然とした態度で指導し、その後、絶対にいじめが起きないように緊急対応をする。時間が経つと事実確認が正確に把握できなくなることがあるのでその場で事実確認をする。

2 生徒から「いじめられている」との訴えがあった場合

つらい思いに共感し、「どんなことがあっても守る」と約束し、その後絶対にいじめが起きないように緊急対応をする。「そんなのいじめではない」、「気にしてはだめ」、「あなたも〇〇を直した方がいいよ」等の不用意な言葉かけはしない。

3 保護者から「うちの子がいじめられている」という訴えがあった場合

保護者、子どもから事情を聴き、「すぐに管理職に報告し、対応する」ことを約束する(必要に応じて会って話をする)。複数対応をする。また、「お子さんも同じようなことをしている」「お子さんは学校では元気に生活している」等の誤解されるような言葉かけはしない。

4 教職員から「〇〇さんがいじめられている」という報告を受けた場合

すぐに事実確認をする。

○ 事実確認の取り方

《方法》

- 1 アンケート等で、学級でどのようないじめがあったのか、どの程度広がっているのかを把握する。学級の環境を、事実を伝えられる雰囲気にしておく。
- 2 個別の面談等により、具体的ないじめの状況を把握するとともに生徒一人一人の心情を共感的に受け止める。生徒が尋問されているような気持ちにならないように配慮する。誰が実施するか、同席をする人は誰かを事前に確認する。

※事実関係の確認、情報管理の徹底を行う。

※いじめアンケートは学期に1回必ず行う。

○ いじめ対策委員会の動き

1 即日立ち上げる。

- 構成メンバー: 校長、副校長、生活指導主任、学年主任、担任、養護教諭、
教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー等
- 具体的な計画を立てる。・・・『いつまでに』、『誰が』、『何を』、『どのように』など

2 組織的に対応する。

- 委員会で把握した情報を全教職員で共有する。
- 委員会はいじめ解決まで適宜開き迅速な対応をする。
- 計画が着実に実施されるようなマネジメントを、校長、副校長、主幹、生活指導主任等が担当する。
- 教育委員会と連携し、対応していく。

○ 生徒への指導

・いじめられた生徒への対応

「あなたを守る」を基調にして本人・保護者了解の下、授業中・登下校・放課後等誰がどこでなにをするかを決め、教職員全員でいじめられた生徒を守る体制を作る。

本人を含め情報の収集と集約を行う。(収集には十分注意と配慮を行う。)

・いじめた生徒への指導

「いじめは絶対にダメ」と伝え、どんな理由があっても、いじめは人間として絶対に許されない行為であることを徹底して指導する。

相手の気持ちを考えさせる。いじめられた生徒の心の痛み、悲しみ等を分からせ、心からの反省をさせる。

いじめた子の背景にあるものを探り、いじめに至った経緯を共感的に聞き、心のケアを図るとともに自己有用感や自尊感情を育てる。

・学級の生徒への指導

見て見ぬふりはダメを徹底する。何もしない、何も言わないのはいじめを助長していることに気付かせ、当事者意識をもたせる。いじめを見たり聞いたりしたら大人に話す雰囲気を作り「いじめの連鎖」を断つ指導を行う。

いじめを止められなかった背景にも配慮し、集団として正しい判断や行動ができるような学級作りを行っていく。

○ 保護者への対応

・いじめられた生徒の保護者への対応

その日のうちに面談し、いじめの事実を正確に伝え、お子さんを守ることと、最優先課題として全教職員で情報共有をして解決していくことを説明し協力を得る。

具体的な内容及び対応方法や指導内容を伝える。いつまでに、誰が、何を、どのように指導していくのか、具体的方策を示す。

いじめが解決するまで指導や対応について継続的に進捗状況を伝えるとともに家庭での様子を把握する。

・いじめた生徒の保護者への対応

その日のうちに面談し、いじめの事実だけを正確に伝える。保護者の心情に配慮しながらも、学校はいじめとして徹底して指導していくことを理解してもらう。学校がとる対応と指導内容を具体的に伝えるとともに、家庭でも親子できちんと話し合うように助言し、保護者と協力して生徒が心から反省できる環境を作る。

・学級の保護者への対応

いじめられた本人、保護者の心情に配慮しながら、場合によっては臨時保護者会を開き、いじめの事実と学校の具体的な対応についての方策を伝え、学級全体に解決に向けての協力を求める。

■いじめ発見チェックリスト

<いじめの可能性があるので、事実を把握する>

<input type="checkbox"/> あいさつを返さない <input type="checkbox"/> 遅刻・欠席が増える <input type="checkbox"/> 忘れ物が多くなる <input type="checkbox"/> 筆圧が弱くなる <input type="checkbox"/> 保健室に頻繁に行く <input type="checkbox"/> 居場所がなく、廊下等を一人でふらついている <input type="checkbox"/> 用事がないのに残っている <input type="checkbox"/> 日記、作文、絵画等に気にかかる表現や描写がある	<input type="checkbox"/> 友達を避けて登校する <input type="checkbox"/> 名前を呼ばれたとき、声が小さい <input type="checkbox"/> 教室に遅れて入ってくる <input type="checkbox"/> 授業中、ふざけたり、変な質問をしたりする <input type="checkbox"/> 急いで一人で帰宅する <input type="checkbox"/> 部活動に参加しなくなる <input type="checkbox"/> 顔や手足に不自然な傷がある <input type="checkbox"/> 校則違反、万引き等の問題行動が目立つ
--	--

<既にいじめが始まっている可能性があるので、すぐに対応する>

<input type="checkbox"/> ノートや教科書に落書きがある <input type="checkbox"/> 靴等を隠される <input type="checkbox"/> 何かにつけて標的にされる <input type="checkbox"/> トイレ（大便）に行ったことをはやしたてられる <input type="checkbox"/> 給食の食べ物にいたずらされる <input type="checkbox"/> 給食を少なく盛られる <input type="checkbox"/> 掃除を一人でやらされる <input type="checkbox"/> 掃除で机を戻す時、いつまでも残っている机がある <input type="checkbox"/> 隠語が使われている <input type="checkbox"/> 掲示物等が落書きされたり、破られたりする	<input type="checkbox"/> 席を替えられている <input type="checkbox"/> いつも命令されている <input type="checkbox"/> プロレスごっこに参加させられている <input type="checkbox"/> 冷やかされたり、不自然なあだ名で呼ばれたりする <input type="checkbox"/> 給食の配膳を嫌がられる <input type="checkbox"/> 人の嫌がる仕事を押し付けられる <input type="checkbox"/> 他の子の荷物を持たされる <input type="checkbox"/> 避けて通られる <input type="checkbox"/> グループからはずされて一人ぼっちでいる <input type="checkbox"/> 持ち物を壊される
--	---

<家庭と連携し、いじめの兆候を発見する>

<input type="checkbox"/> 衣類の汚れや破れが頻繁に見られる <input type="checkbox"/> 考え事が多くなり、食欲がなくなる <input type="checkbox"/> 体の外から見えにくいところに、理由の分からない傷がある <input type="checkbox"/> 部屋に閉じこもることが多くなる <input type="checkbox"/> 家族との会話を避け、視線をそらす <input type="checkbox"/> 転校を口にする <input type="checkbox"/> 投げやりで集中力がなくなり、無気力になる <input type="checkbox"/> 親しい友人が来なくなり、見かけない者がよく訪ねてくる	<input type="checkbox"/> 学用品や所持品を紛失したり、壊されたりする <input type="checkbox"/> 寝付きが悪く、夜眠れない日が続く <input type="checkbox"/> 落ち着きがなくなり、おどおどするようになる <input type="checkbox"/> 登校時、体の不調を訴え、登校を渋る <input type="checkbox"/> ゲーム等に異常に熱中する <input type="checkbox"/> 家族にあたるが多くなる <input type="checkbox"/> 不審な電話・メール・手紙が来る <input type="checkbox"/> 電話に出るのを嫌がる <input type="checkbox"/> 携帯電話に友達からの呼び出しメールが頻繁に来る
---	---

■ いじめ対応の評価

※課題があった場合には、指導内容や組織等を見直しましょう。

◆ 発見から初期対応までの校内体制について

- いじめられている子どもの安全確保を図りましたか。
- いじめを発見した時は、即日、管理職へ報告しましたか。
- 即日、事実確認や情報収集を行いましたか。
- 即日、校内委員会を開催しましたか。
- 校内委員会では、具体策・役割分担等を明確にしましたか。
- 校内委員会で決定したことを、全教職員で共通認識できましたか。
- 校内委員会で決めたことを、確実に実施できましたか。
- 対応の方策を、1日あるいは1週間毎等に評価し、改善してきましたか。

◆ 子どもへの対応について

- いじめを止めるために、毅然とした態度で指導しましたか。
- いじめた子が、心から反省しましたか。
- いじめられた子が、安心して学校へ通えるようになりましたか。
- 学級全体でいじめを許さない、という具体的な指導ができましたか。
- 学級全体の人間関係が改善されましたか。
- 子どもの心のケアができる体制をつくれましたか。

◆ 保護者への対応について

- いじめをしている側、いじめを受けている側の保護者の気持ちを受け止め、対応することができましたか。
- いじめられた子どもの保護者と即日面談をしましたか。
- 当該保護者に子どもの状況や指導内容について、随時伝えましたか。
- いじめの状況や解決のための具体的な指導内容について保護者会で説明しましたか。
- いじめ問題は最優先課題として対応するという学校の姿勢を保護者全体に周知することができましたか。

◆ いじめ未然防止について

- 子どもたちとの触れ合いを大切にし、信頼関係を日頃から築いていますか。
- 道徳や学級活動等を通して児童・生徒の心を育て、よりよい友達関係を築くための指導を行っていますか。
- 教師の言動や態度に気を付け、いじめが発生したり、深刻化したり、助長しないようにしていますか。
- 日頃から学校便りや学年・学級便り、保護者会等を通して、保護者に対していじめ防止の啓発をしていますか。